

母からの言葉

パソコンが普及し始めたころ、インターネットで何気なく同性愛について検索するうちに、同性愛についての講演会があることを知りました。その講演会に参加するうちに、僕はそこでスピーカーを務めるようになるのですが、母には、「講演会に行ってくるね」としか伝えていなかったもので、ただ誰かの講演会を聞きにいつているくらいにしか考えていなかったようです。

ただ後で聞いたら、母は、僕が同性愛者であることに気づいていたようです。母にカミングアウトしたとき、「あなたが異性愛者か同性愛者かどうかは問題じゃなくて、自分を高められる恋愛ができるかどうかが大切だよ」と言ってくれました。

父には、母から伝えてもらいました。父なりに葛藤はあったかと思いますが、今は受け入れてくれてます。

逆カミングアウトしてほしい

友人へは、一部のごく親しい人を除いて、大学卒業後に出版した自叙伝を読んでもらうことでカミングアウトしたことになります。本を読んで理解してもらったうえで、僕に接してくるので、とても恵まれていたと感じています。

でも大学時代に仲のよかった友人には、「なんで僕はカミングアウトしてくれなかったんだ。あいつには打ち明けているのに」と責められたこともありましたが。とても親しかったので、打ち明けなかったことが彼なりに傷ついたようです。

同性愛者に対する社会からのプレッシャーはあまりにも強いです。同性愛はいけないものだという思いか

ら、どうせみんなに受け入れてもらえないだろうと考えてしまい、なかなかカミングアウトに踏み切れません。

だから、同性愛に理解を持ってくれている人たちは、ただ心の中でフレンドリーなだけでなく、それをポジティブなメッセージとして外に発信してほしいと思います。いわば“逆カミングアウト”ですね。

例えば何気ない会話のなかで、セクシュアルマイノリティについて話題にするとか、先生が授業のなかで一言触れてみるとか、そういったポジティブなメッセージを発信してくれることによつて、僕たちは、この人なら話しても大丈夫だなと思うことができるんです。

人と人をつなぐ活動を

カミングアウトしたことによつて全国的なつながりができ、当事者の仲間もできました。それまでは、否定的なことを言われたらどうしようと思っていたのが、仲間ができたことで、「あれもやってみよう」「これもやってみよう」と積極的になりました。

社民党の福島みずほさんに、セクシュアルマイノリティの勉強会やイベントでお会いしているうちに、勧められて政治の世界に入りました。

政治では、セクシュアルマイノリティとして生きてきた視点から活動していきたいです。これまでセクシュアルマイノリティをつなぐ活動をしてきた経験を生かし、人とのつながりを再生する提案をしていきたいと考えています。

同性愛の問題は、プライバシーの問題だから、あえて話すべきではないと言われるときもあります。しかし、性は、毎日の生活の中で常についてまわる重要な問題です。そういったことを隠して生活しても、自分の力を100%出し切れることはできません。自分自身の個

性を受け入れてもらって初めて、人は力を出し切ることができるとだと思います。

すべての人が

生きやすい社会をめざして

世界ではヨーロッパを中心に、同性同士のパートナーシップに法的保障を与える同性婚などが次々と認められてきています。日本ではそういった制度はありませんが、各種調査により、日本でも4%前後の人が同性愛者だとわかってきました。つまり学校のクラスには1〜2人、板橋区だと53万人の人口に対し、2万人以上の同性愛者がいる計算で、実は身近なところにも多くの当事者がいることになりました。

ヨーロッパで同性愛者の人権が認められている国では、女性の人権も認められていて、環境問題もきちんと考えられています。

同性愛者の人権がどれだけ認められているかが、その国の人権度を計るリトマス試験紙だとも言われています。同性愛者の人権が認められている国が、女性や障がい者の人たちが生きやすい社会だと言えることができるのです。

日本の社会でも、女性が生きやすい社会を作ったり、環境に配慮した社会を作ったりすることの積み重ねが、同性同士のパートナーシップに法的保障を与えることの実現にもつながると信じています。

